

対象国の条件:

研修コース番号:201984484-J002

案件番号:201984484

主分野課題:防災/気象

副分野課題:

使用言語:英語

案件概要

本研修は、世界でも先進的な気象予測技術を誇る気象庁の協力のもと、数値予報・気象衛星・気候情報並びにこれらを活用した気象情報作成手法の習得を目的とし実施しており、途上国の気象業務能力向上及び防災能力強化への貢献が期待される。

目標/成果

対象組織/人材

【案件目標】

各国気象機関において、数値予報、気象衛星、気象情報等の気象データを活用した気象業務能力向上のための取組みが進められる。

【成果】

1. 気象業務の基本的知識を習得し、災害発生時に気象業務が果たしうる役割を理解する
2. 数値予報や気象衛星等の概要を理解する
3. 数値予報や気象衛星等を用いて、ユーザーニーズに即した気象情報の作成方法を理解する
4. 気候・地球環境情報の作成方法を理解し、ユーザーに対して説明することができる
5. 自国の気象業務改善のための基本的な計画をアクションプランにまとめる

【対象組織】

気象業務に携わる政府機関または関連機関

【対象人材】

1. 世界気象機関 (WMO) の分類による Meteorologist (気象学者) であること
2. 現在政府もしくは政府系機関にて気象業務に従事していること
3. 3年以上の実務経験があること
4. 理学士もしくは工学士であること
5. 40歳以下であること
6. 基礎的PCスキルがあること
7. 十分な英語能力を有すること
8. 心身ともに健康であること

内 容

【事前活動】 質問票、カントリーレポート、プレゼンテーションの作成

【本邦研修】 主に以下の内容の講義、実習等を行う。

1. 数値予報の基礎・数値予報データ利用に関する講義、気象衛星業務概論、気象衛星データ利用に関する講義、国際的な気象データ通信に関する講義、衛星データ利用に関する実習、予報業務に関する実習、各国のニーズに即した気象情報作成に関する講義、気候・地球環境情報に関する講義、気候・地球環境情報の利用に関する実習等
2. アクションプランの発表、ディスカッション

※なお、本研修では、研修を通じた「知識共創 (Knowledge Co-creation)」の実現を図るために、アクティブラーニングメソッドを導入予定です。

【事後活動】 特になし (質問票によるフォローアップアンケート等)

本邦研修期間

2019/9～2019/12

担当課題部

地球環境部

所管国内機関

JICA東京 (経済環境)

関係省庁

国土交通省 (運輸)

実施年度

2017～2019

主要協力機関

気象庁

**特記事項
及び
ホームページ**

<https://www.jma.go.jp/jma/indexe.html>